

速くて簡単に正確な測定が可能になり、血糖値管理がしやすくなりました

動物専用の血糖測定器「thinka BS-7110」。イヌ、ネコそれぞれの検量線を採用するとともに、ヘマトクリット値による自動補正を行うことで、ヒト用の従来品より測定精度を向上させました。必要検体量は全血0.3 μ Lと微量であるため、静脈採血が不要で一人でも血糖測定が可能です。

課題

- ヒト用簡易血糖測定器では正確に測れない
- 静脈採血の場合、保定によるストレスがかかる
- 測定の度に保定者を呼ばねばならずスタッフにも負担がかかる

導入ソリューション

動物用グルコース分析装置
thinka BS-7110



効果

- イヌ・ネコでも信頼性の高い血糖値が得られる
- 全血0.3 μ Lと非常に少ないので保定なしでも血液採取可能
- 保定者が不要なためスタッフの負担も軽減

小型・簡単なのに正確

動物の血糖値管理をするのに、簡易血糖測定器を試したこともあります。正しく測れないので困っていました。そんなとき、thinka BS-7110の詳細なデータを見る機会があり、興味を持ちました。試して使ってみたところ、イヌでもネコでも、高血糖から低血糖まで、生化学検査との値のずれがほとんどありませんでした。特に、貧血でも脱水状態でもかなり正確な値を示してくれるのは、既存の簡易血糖測定器にはみられなかったことです。これは便利だと思い、導入しました。

治療方針が立てやすい

血糖値を知りたいときに知ることができるといのは、血糖値管理では大切なことです。ケトアシドーシスで繰り返し血糖値を測定しなければならぬときや、血糖値がなかなか下がらなくてソモギー効果なのかインスリン不足なのか判断が必要なときなど、thinka BS-7110の導入により頻回の血糖値測定が容易になり、治療方針を立てやすくなりました。

慣れれば保定の必要なし

静脈から採血を行うには動物を保定する必要があり、すぐ興奮するシャイなネコなどでは十分に検査できないこともありました。その点、thinka BS-7110は0.3 μ Lの検体量で耳介などから得たちょっとした末梢血で測定可能なため、症例によっては保定することなく採血することも可能です。場合によっては獣医師の指導の下、飼主さまが自宅にてご自分で採血と測定を実施することもでき、これも大きなメリットといえます。



スタッフにも好評

病院としても人員を削減できることはとても助かります。静脈採血して血糖値を測定するとなると、まず保定する人と採血する人の2名が必要で、さらに得られた血液を遠心して血漿を分離して検査機器を

動かす、という一連の操作が必要でした。thinka BS-7110の導入により、採血から測定までを1人で迅速に行うことができるようになり、病院スタッフからも、効率よく業務を行えるようになったと好評です。

今後はデータ連携される可能性も？

一言でいうと、thinka BS-7110には大変満足していて、他に期待するところはこれ以上ないと言ってよいくらい気に入っています。あえて挙げるなら、thinka BS-7110に蓄えられたデータを出力できるようにして、グラフを自動で作成をし、飼い主さまと共有できるようになることを期待します。

でもまずは、できるだけ多くの皆さまにthinka BS-7110を実際に手に取っていただき、動物の血糖値が簡単に正確に測定できる時代が来たことを実感してもらいたいと思っています。



東京大学 附属動物医療センター
内科系診療科
第1内科 科長
米澤 智洋先生

2013年に獣医臨床病理学研究室 准教授として着任し、内分泌、神経、泌尿器を主に担当して診療している。内分泌では糖尿病、ケトアシドーシス、インスリンノーマなど、血糖の調節を慎重に行う必要のある症例を診る機会が多い。

Address: 東京都文京区弥生1-1-1
Tel: 03-5841-5420 URL: <http://www.v.m.a.u-tokyo.ac.jp/vmc/>